

さんさいきんらんでりゅうもんそうじへい  
三彩金襴手 龍文双耳瓶

種 別	県指定文化財 工芸品
指定年月日	平成19年4月27日
所在地	天神町(小松天満宮)

本品は、前田利常より小松天満宮に寄進されたものと伝わる。利常は美術工芸品の収集にも力を注いでおり、海外文化の移入先であった長崎に御買物役を派遣し、優れたものがあれば購入させた。本品もそうして入手したものとみられる。

中国・明の中期頃の作とみられる。文様は線彫りで表現されており、色絵の一部にさらに金彩を施す金襴手と呼ばれる手法が使われている。

胴の部分には飛龍文が彫られており、瓶全体には花唐草や芭蕉の葉をかたどった文様が配される。文様部分は紫・濃紺・白の釉薬で彩色され、地は碧青の釉薬で塗られている。金彩は口縁部、飛龍と獣首の一部に施されている。

明代の三彩陶磁は数多く作られているが、この瓶のように線彫りで文様を表し、一部金彩を施したものは極めて少ない。さらに高さ51.5センチメートルに及ぶ大作であり、一対がほぼ傷も無く現存している。これらのことから、美術的・歴史的に非常に貴重な作品であるといえる。

